

居住誘導区域の検討に当たっての着目点

人口の動向

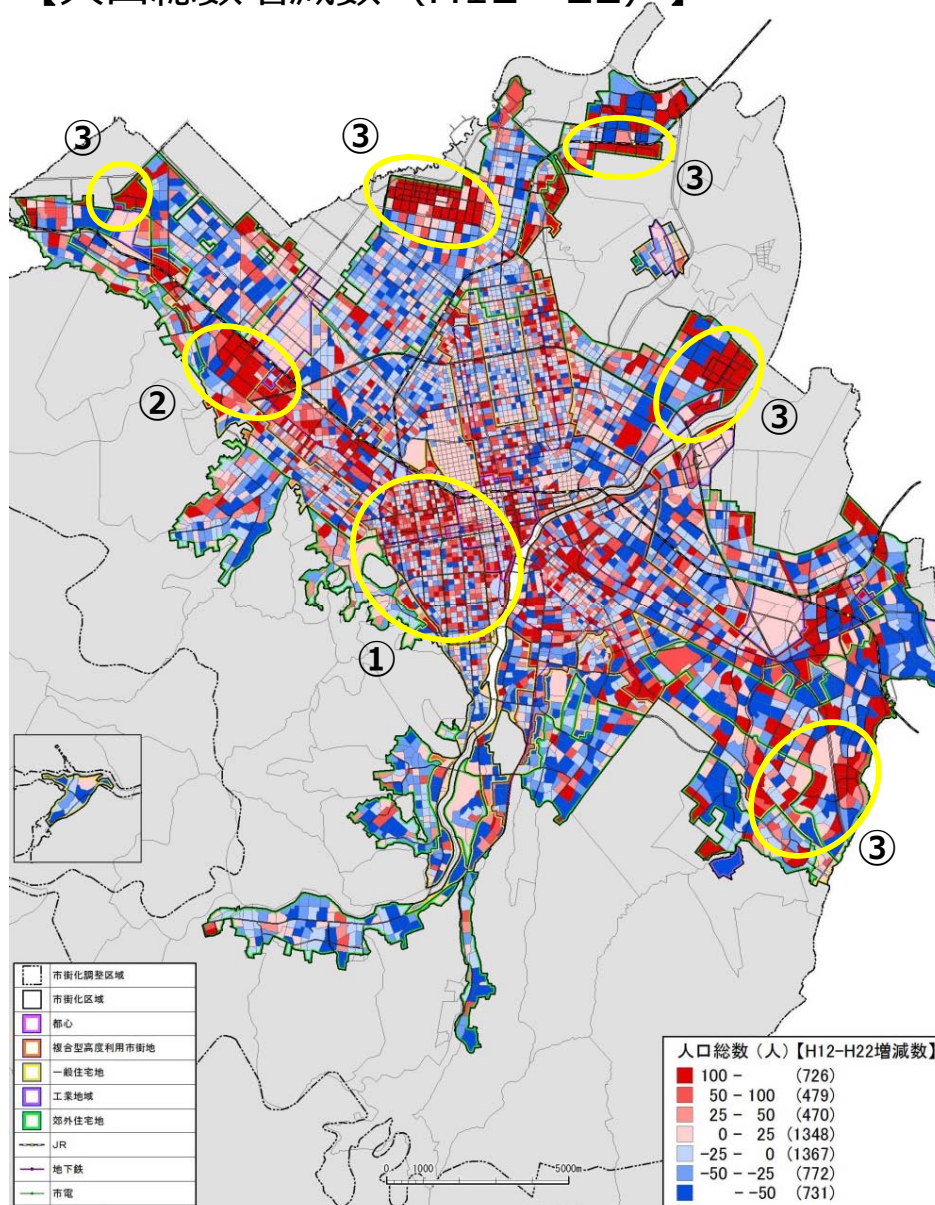
市民の意向

土地利用の状況

防災

人口の動向（過去の傾向）

【人口総数増減数（H12～22）】

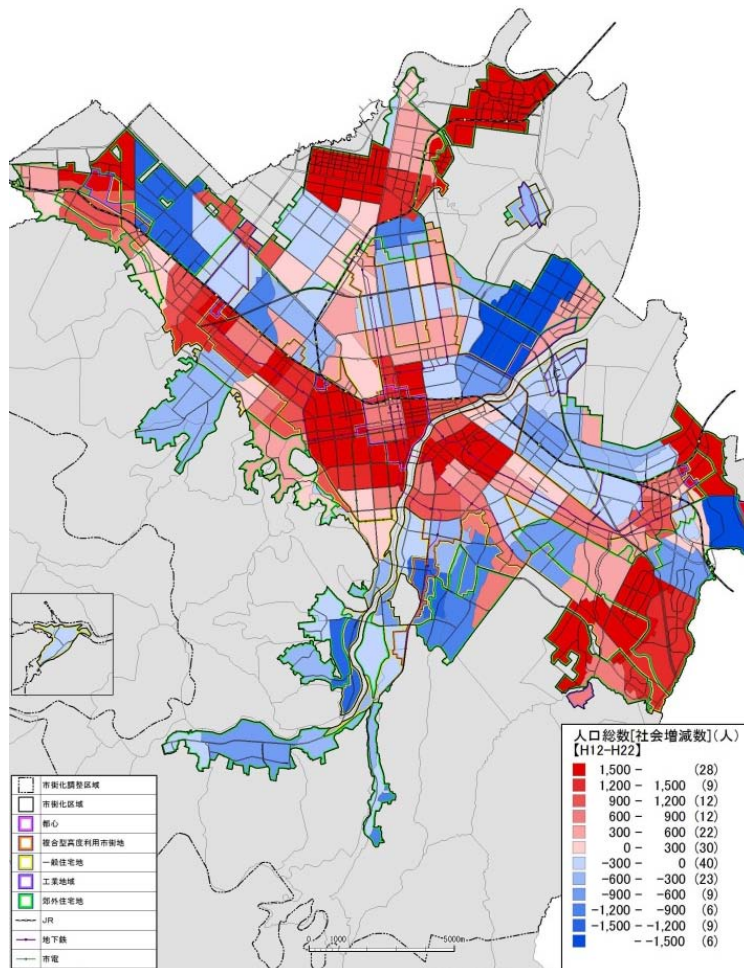


- ・ 市内全域において、まばらに人口増減がみられた。
- ・ 特に人口総数の増加数が多かった地域は、以下のとおり。
 - ①中央区
 - ②地下鉄新駅周辺（宮の沢（平成11年））
 - ③郊外新規開発地（屯田、南あいの里、手稲明日風など）

（条丁目別）

人口の動向（過去の傾向）

【社会増減数（H12～22）】



（統計区※別）

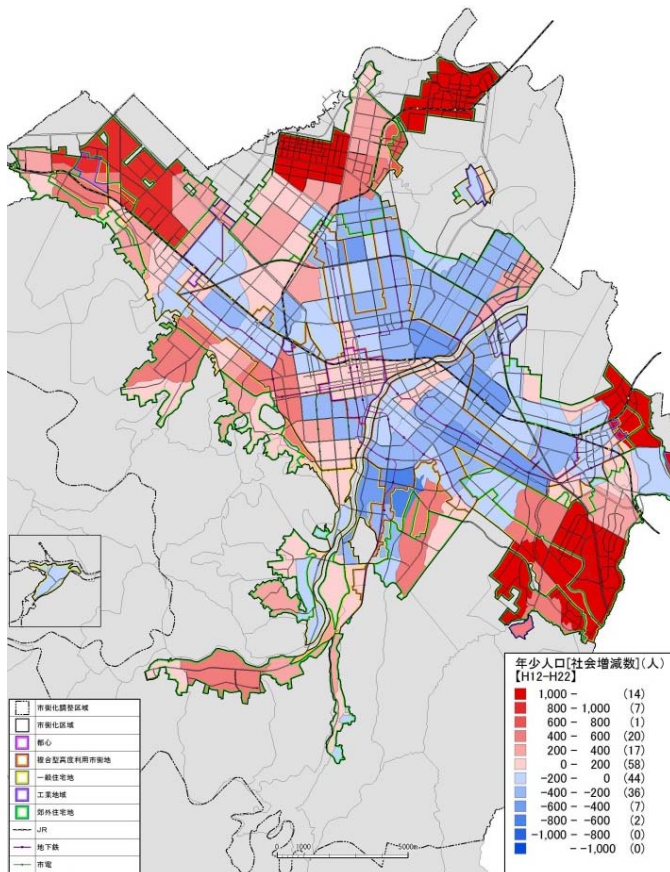
- ・人口総数の増加数が多かったエリアについては、社会増減数も増加している。

※統計区：区よりも小さな地域の統計情報を集計するため、札幌市が独自に設定している地理的区域

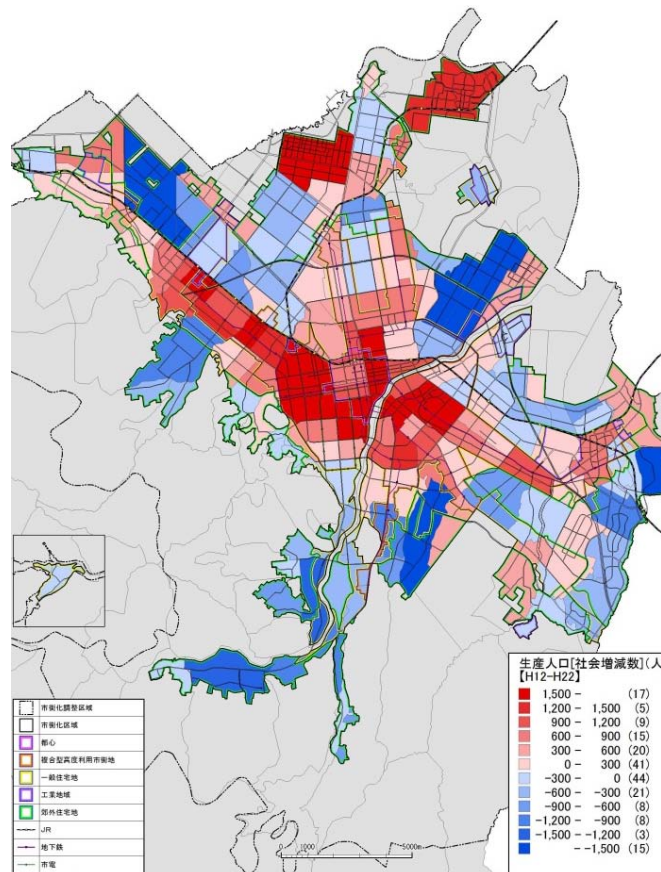
人口の動向（過去の傾向）

【社会増減数（H12～22）】＜年代別＞

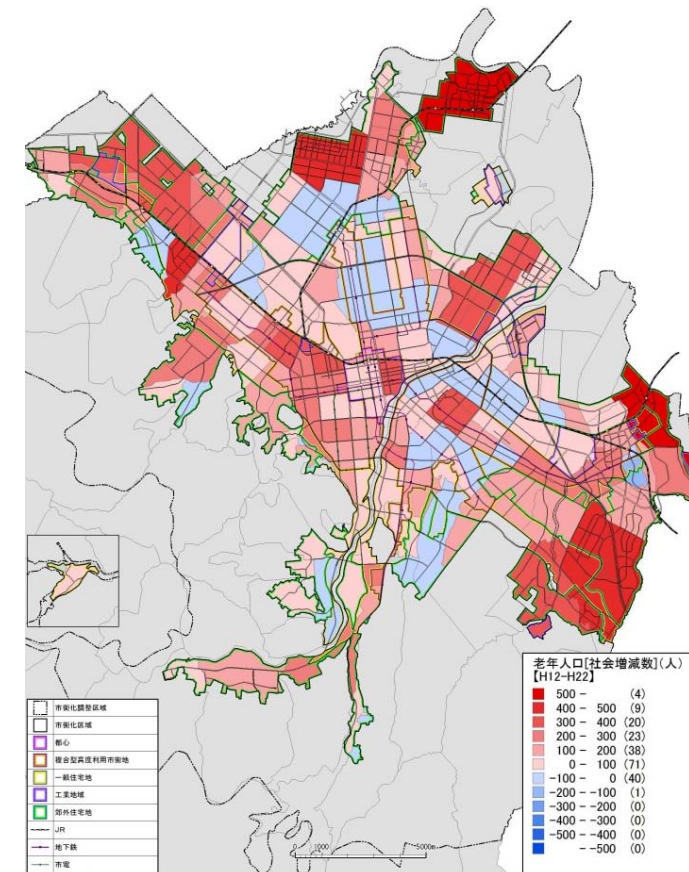
◆年少



◆生産年齢



◆老年



(統計区別)

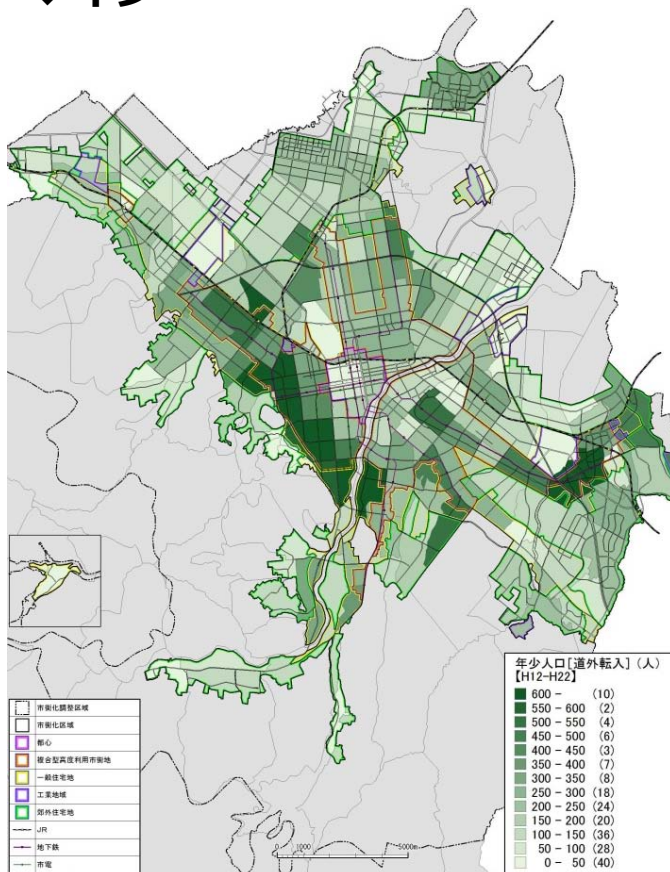
- ・社会増減数については、世代別に傾向が異なる。
- ・年少は主に郊外部において増加しており、生産年齢は主に中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域において増加している傾向がある。
- ・老年については、全市的に増加している。

人口の動向（過去の傾向）

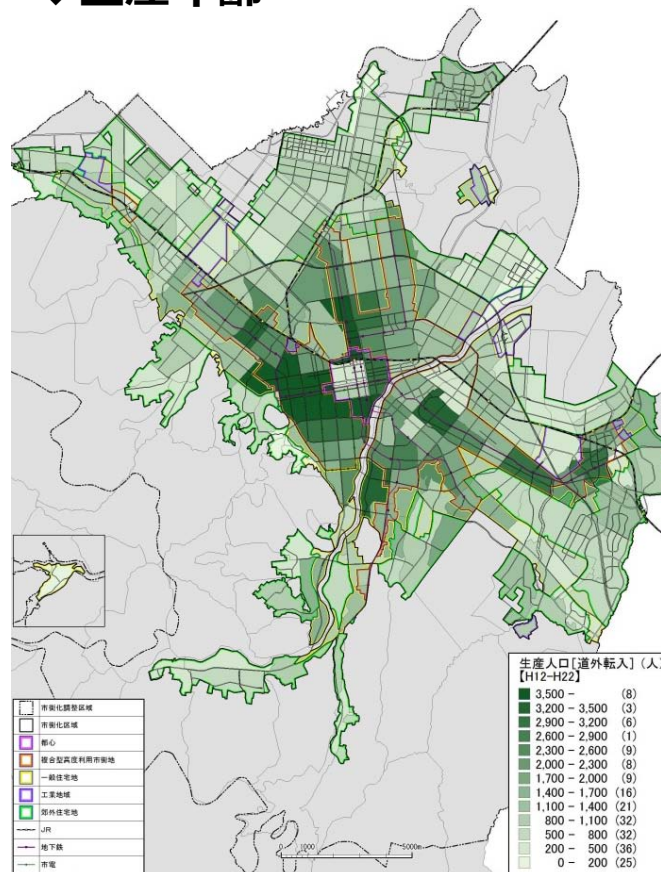
【転入人口（H12～22）】＜年代・転入元別＞

◇道外から

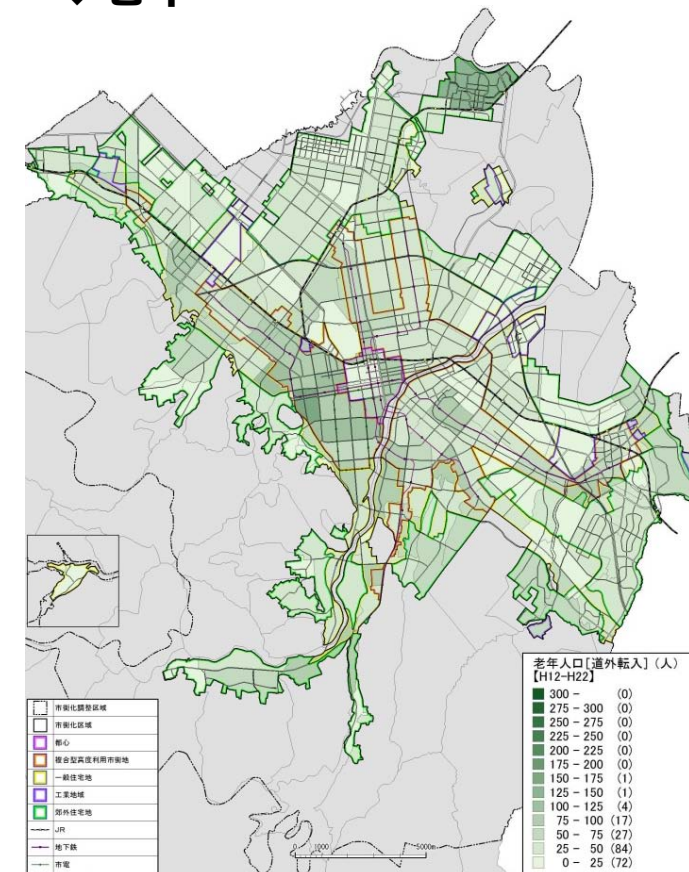
◆年少



◆生産年齢



◆老年



（統計区別）

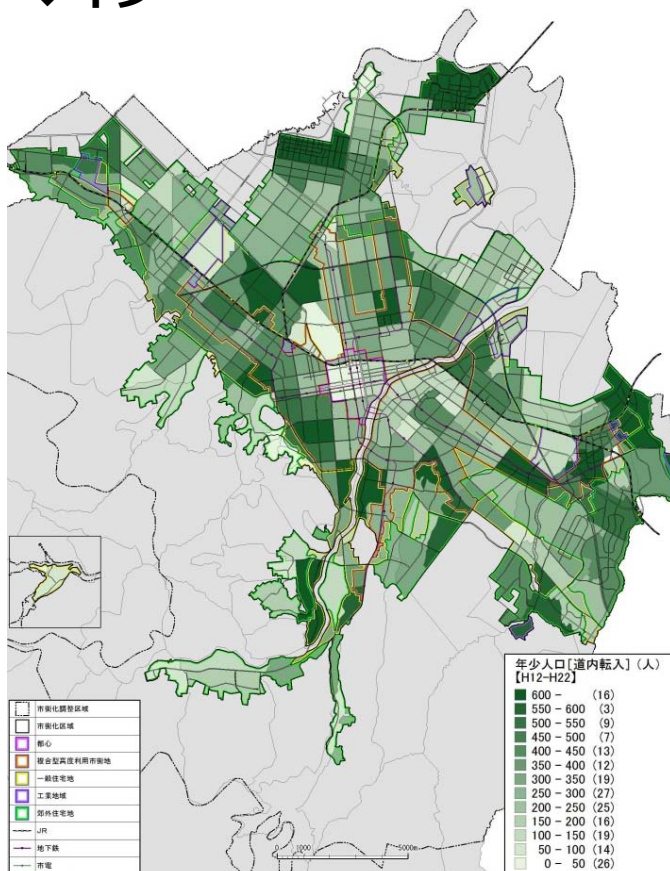
- ・道外からの転入人口を年代別に比較すると、年少と生産年齢は同様の傾向がみられる。
- ・老年については、転入数自体が少ない。

人口の動向（過去の傾向）

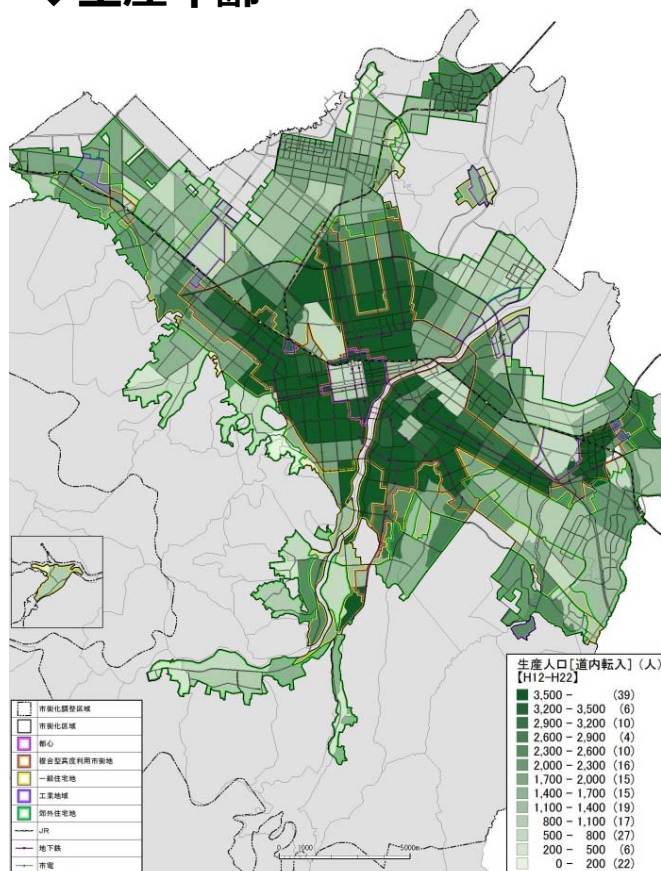
【転入人口（H12～22）】＜年代・転入元別＞

◇道内から

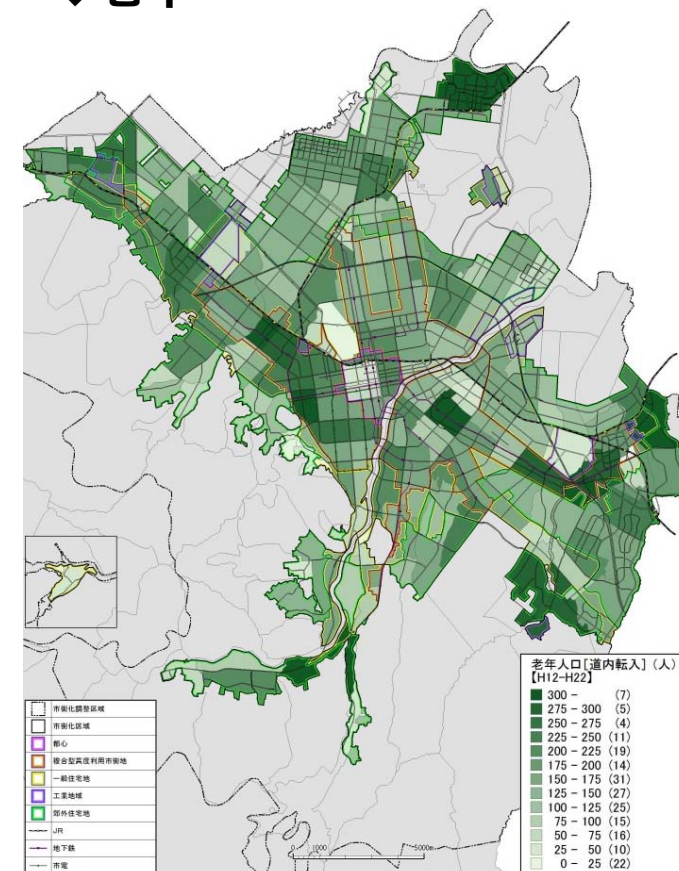
◆年少



◆生産年齢



◆老年



(統計区別)

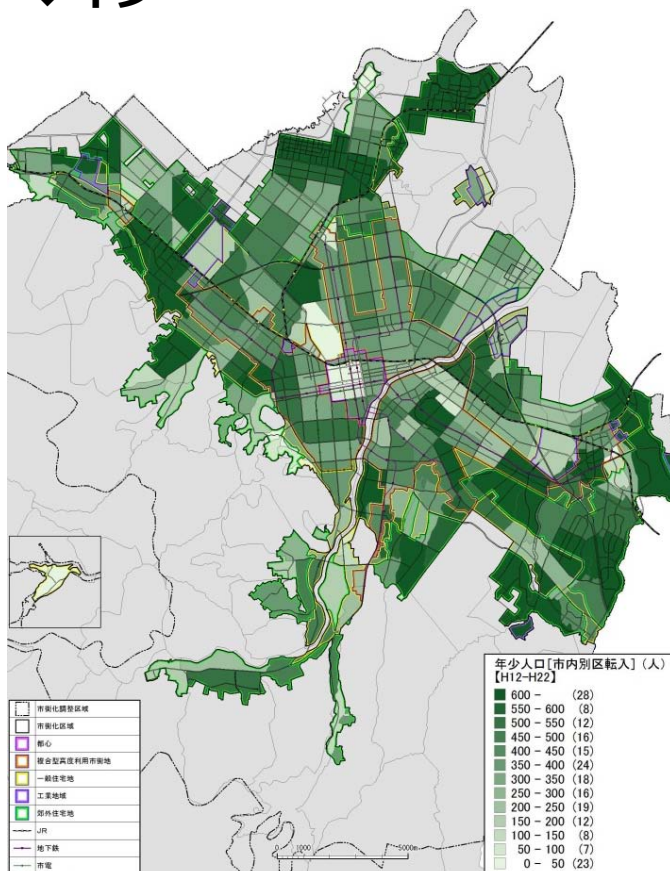
- ・道内からの転入人口については、年代別に傾向が異なる。
- ・生産年齢は他年代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に多く集まっている傾向があるが、年少や老年は、比較的郊外部に分散している。

人口の動向（過去の傾向）

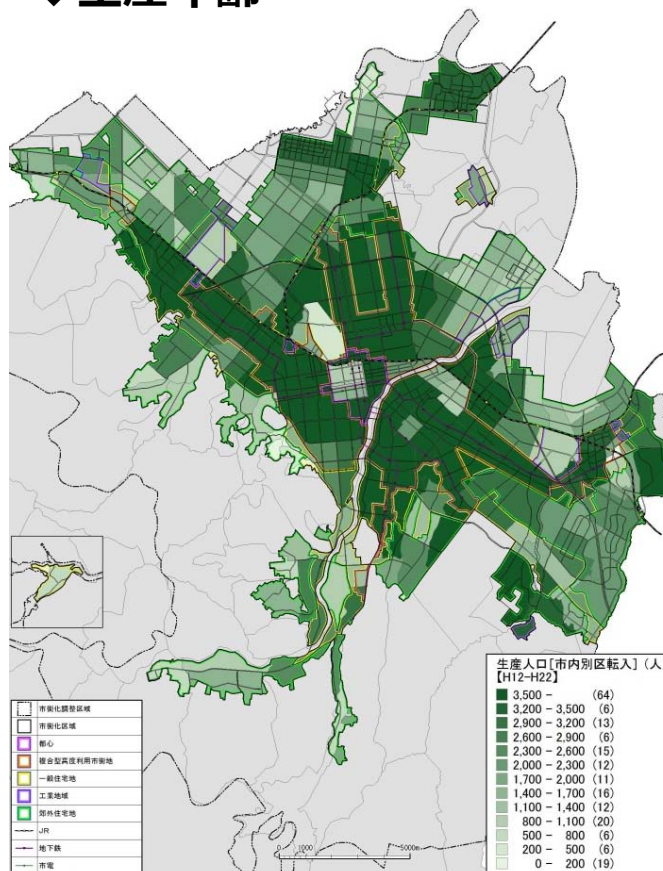
【転入人口（H12～22）】＜年代・転入元別＞

◇市内別区から

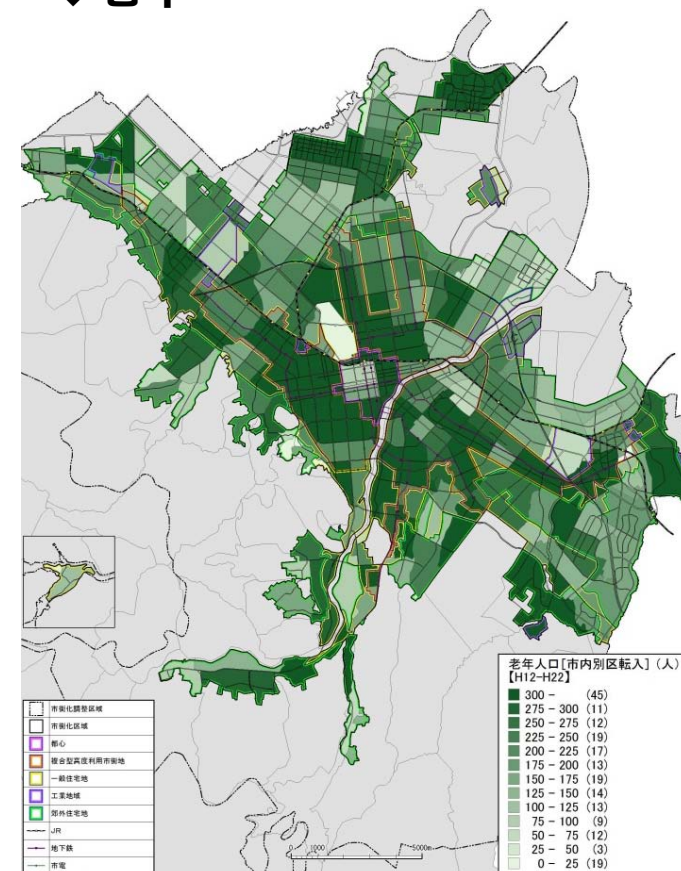
◆年少



◆生産年齢



◆老年



(統計区別)

- ・市内別区からの転入人口についても、年代別に傾向が異なる。
- ・生産年齢は他年代と比べて、中央区や地下鉄沿線などの利便性の高い地域に比較的多く集まっている傾向があり、年少は郊外部に多く、老年は利便性の高い地域にも郊外部にも多い。

人口の動向（過去の傾向）

【まとめ】

- ・ H12～22の人口の動向については、特に中央区・地下鉄新駅（宮の沢）・郊外新規開発地の人口増加数が多かった。
- ・ 人口増加数の内訳を年代別にみると、生産年齢、つまり学生や働き手世代は、他世代と比べて、中央区や地下鉄沿線などに多く集まる傾向があり、ファミリー層や高齢者は、比較的郊外部に多く集まる傾向があった。

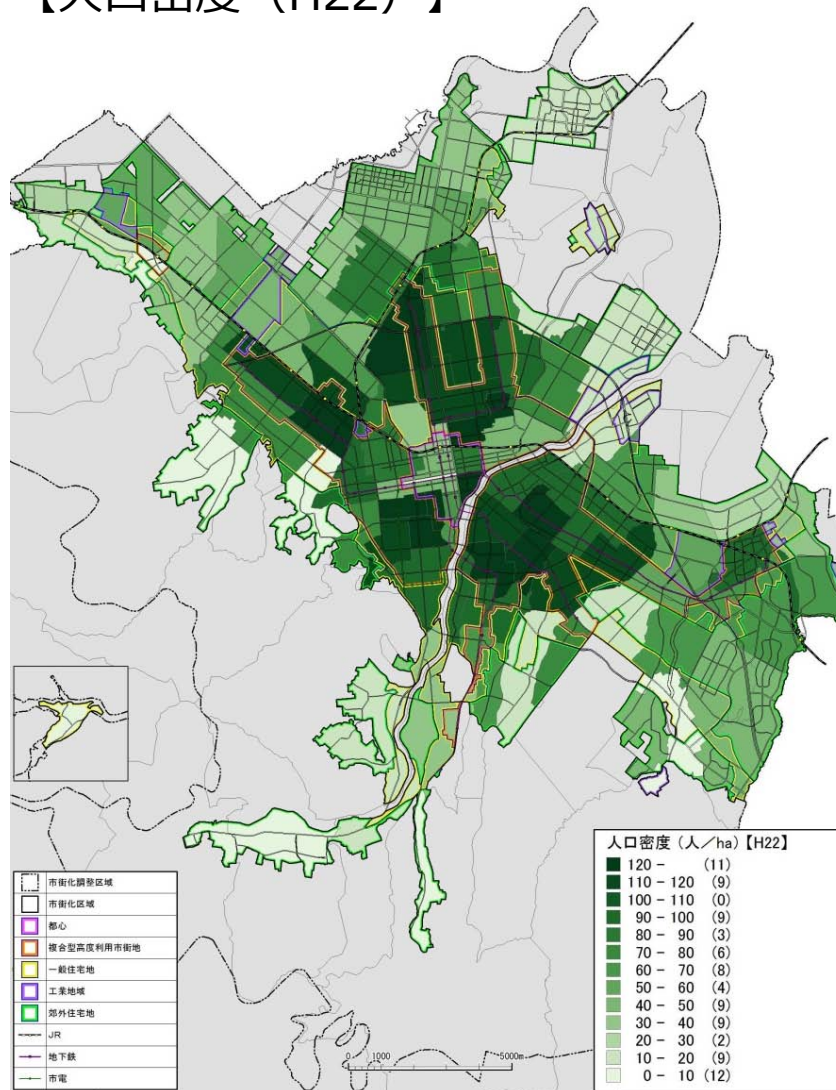
【転入人口（H12～22）】年代別・転入元別にみた場合の転入先の傾向

	年少	生産年齢	老年
道外から	中心部	中心部	— (転入数自体が少ない)
道内から	郊外部	中心部	郊外部
市内別区から	郊外部	中心部	郊外部 & 中心部

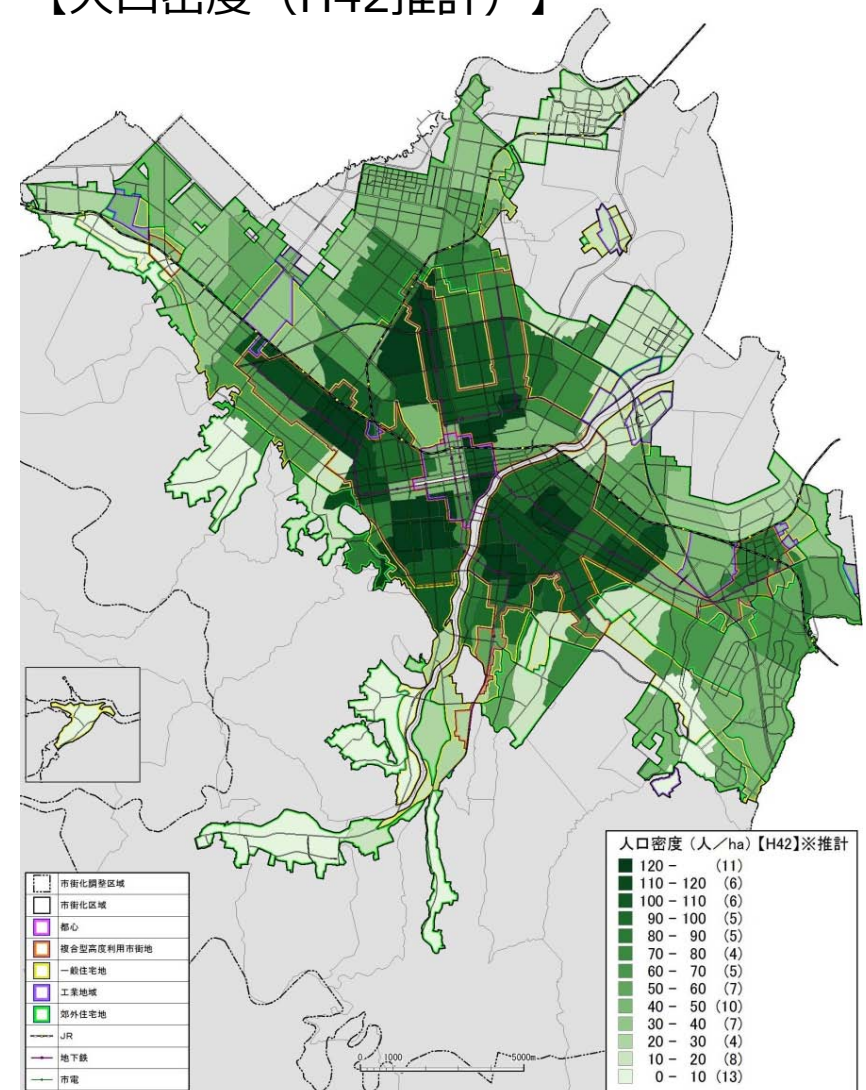
世代や家族構成により、居住地の選択における特徴に違いがみられる

人口の動向（将来推計）

【人口密度（H22）】



【人口密度（H42推計）】



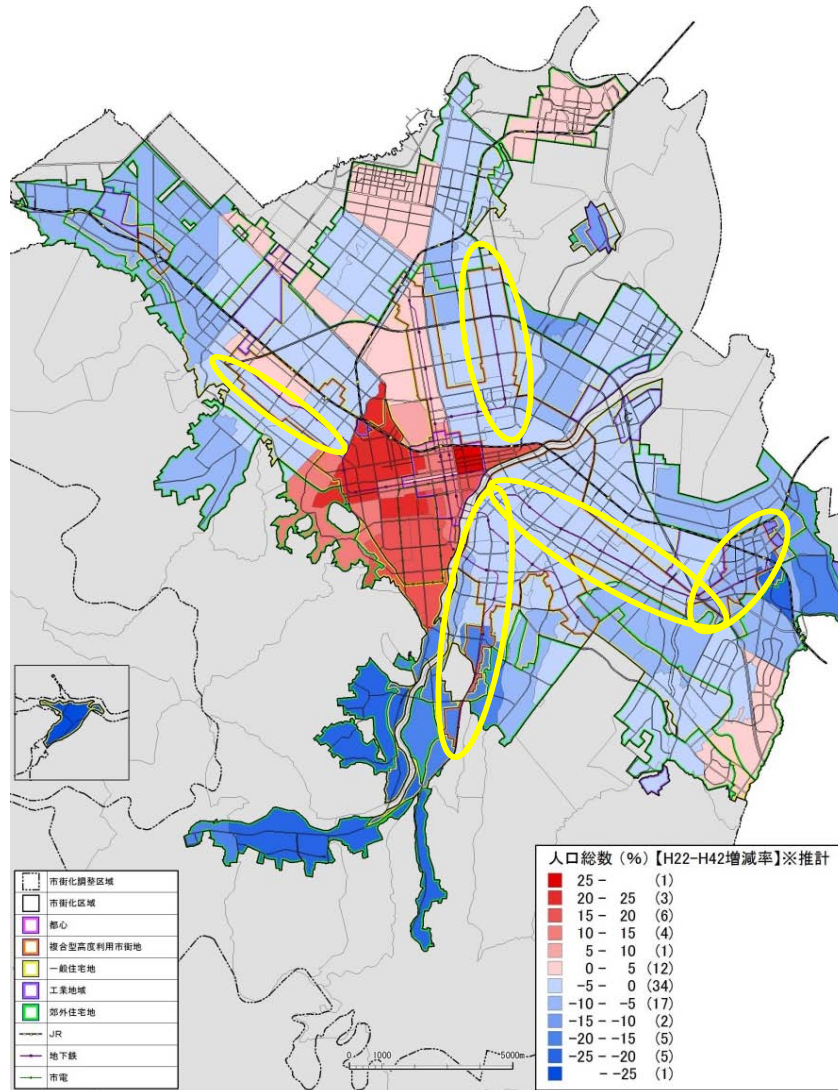
（まちづくりセンター※エリア別）

- ・ H22とH42時点の市内の人口密度については、全体的にはそれほど大きな変化はみられない。²³

※まちづくりセンター：様々なまちづくり活動を支援する地域の拠点（H25年4月1日現在：87箇所）

人口の動向（将来推計）

【人口総数増減率（H22～42）】



（まちづくりセンターエリア別）

・ 今後の人口については、新規開発地である一部の郊外部を除き、中央区への一極集中が推計される。

・ 郊外部の人口減少は顕著となり、**地下鉄駅周辺などの利便性の高いエリアであっても、人口減少が進む地域がある。**

市民の意向（市民アンケート）

- （１）調査の対象** 札幌市に住んでいる１８歳以上の市民３,０００人を無作為に抽出
- （２）調査の方法** 郵送による配布、回収
- （３）調査の期間** 平成２６年９月１２日（金）～平成２６年９月３０日（火）
- （４）回収結果** ９０３人の方から回答（回収率３０．１％）

市民の意向（市民アンケート）

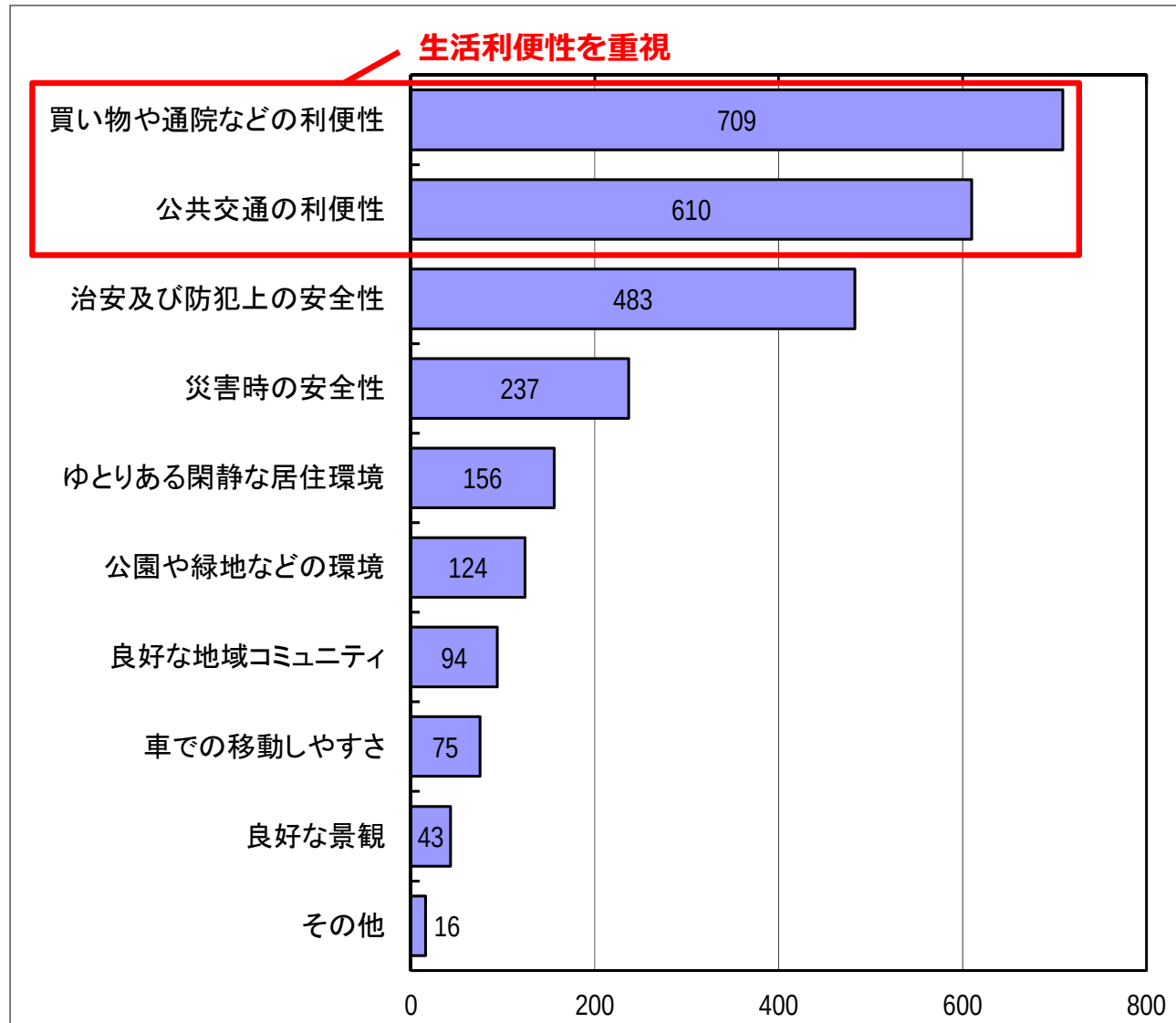
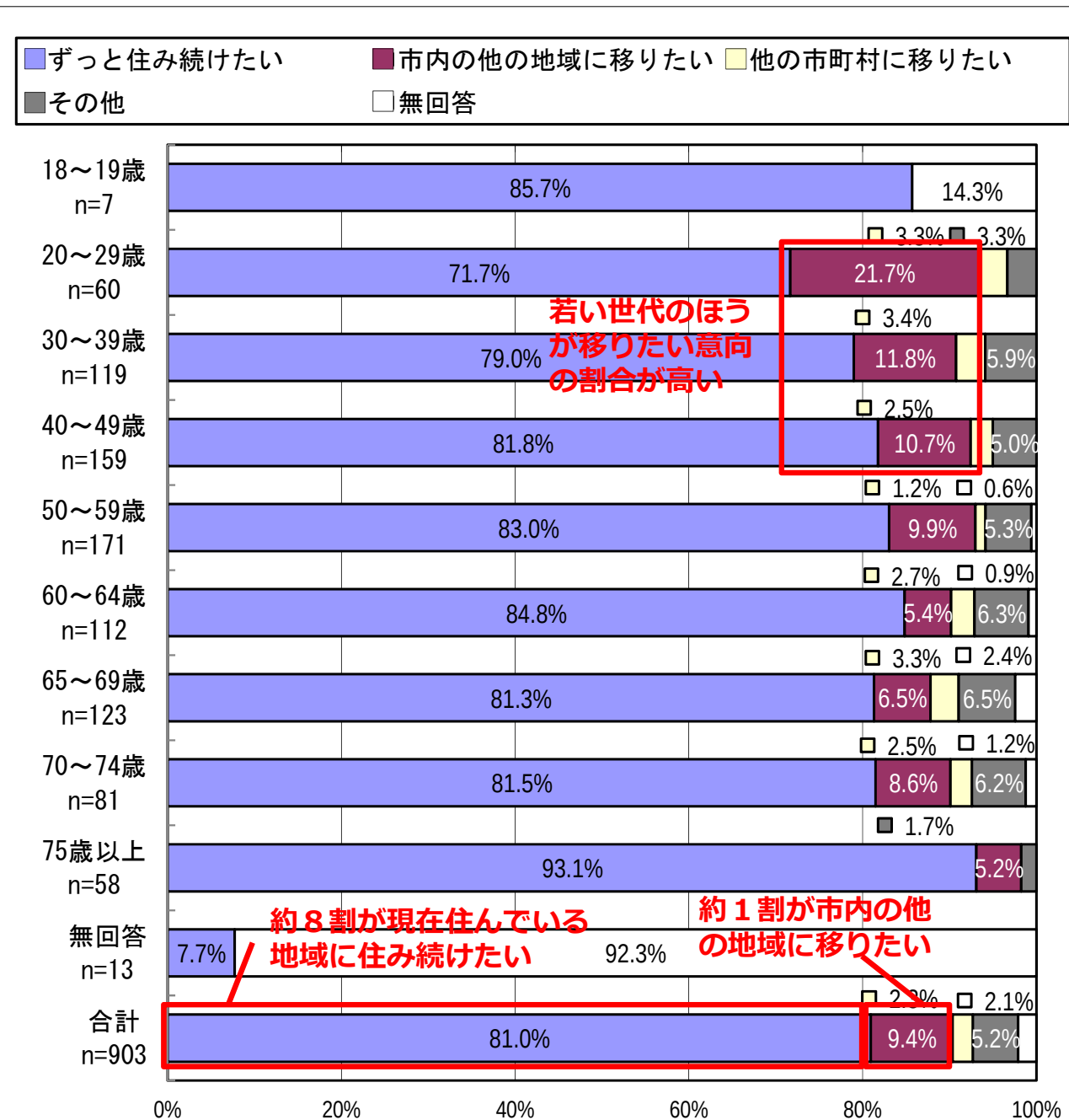


図 居住環境として重要と考えること

Q 居住環境として重要と考える項目は
なんですか。

・ 居住環境として、買い物・通院・公共交通などの「生活利便性」を最も重視しており、続いて、災害や防犯などの「安全性」、ゆとりある居住環境や公園・緑地等の順となっている。

市民の意向（市民アンケート）



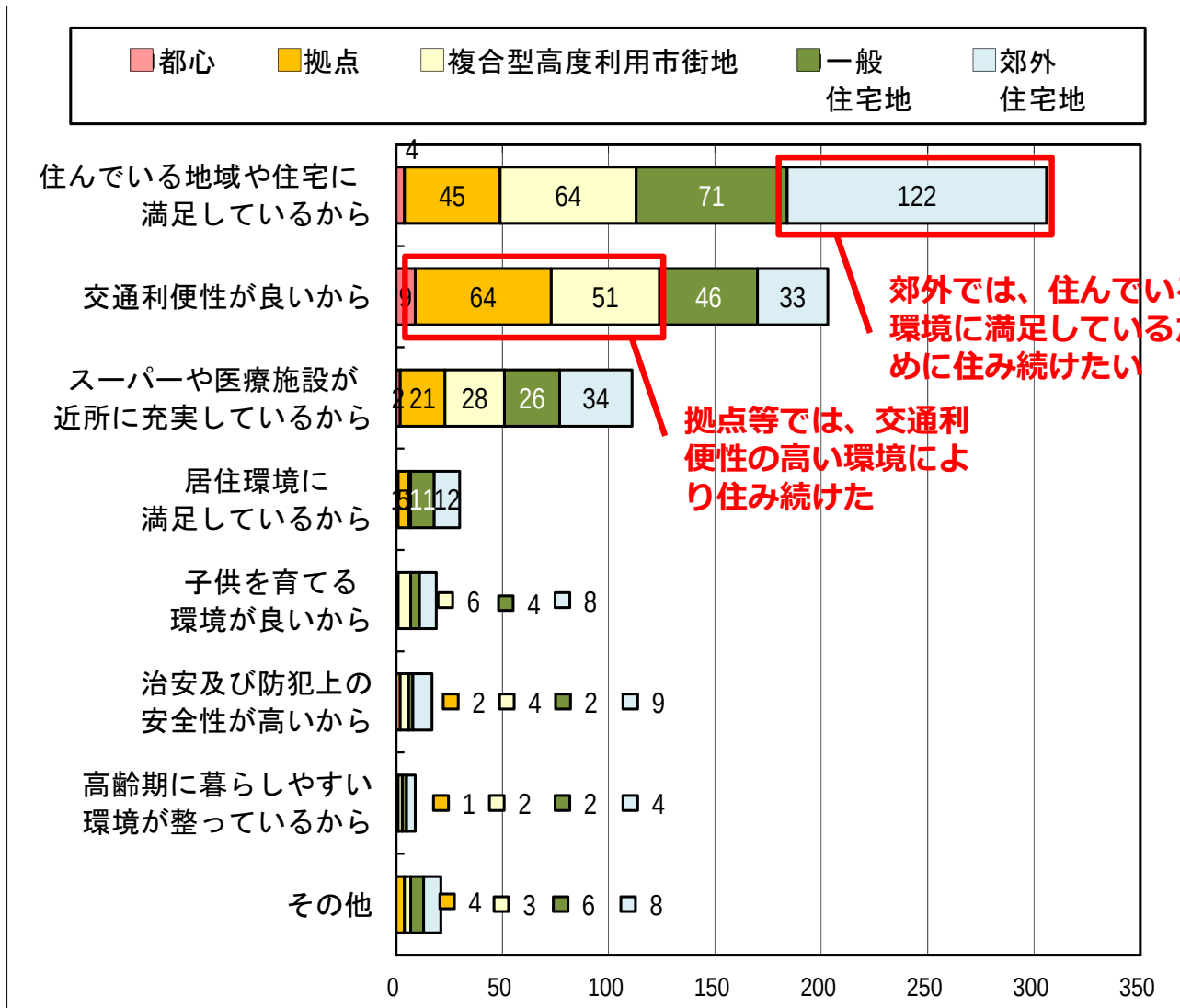
Q 今後も現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますか。

・ 回答者の約8割が現在住んでいる地域に住み続けたい意向であり、約1割が市内の他の地域に移る意向をもっている。そのため、札幌市内に住み続けたい意向はあわせて約9割となっている。

・ 住み続けたい意向を年齢別にみると、若い世代のほうが市内の他の地域に移りたい意向の割合が高くなっている。

図 今後も現在の住まいに住み続けたいか（年齢別）

市民の意向（市民アンケート）



Q 住み続けたいと思う理由は何ですか。

・拠点や複合型高度利用市街地では、交通利便性の高い環境により住み続けたい意向となっており、郊外では、住んでいる環境に満足しているために住み続けたいという意向がみられる。

図 住み続けたいと思う理由（市街地区別別）

市民の意向（市民アンケート）

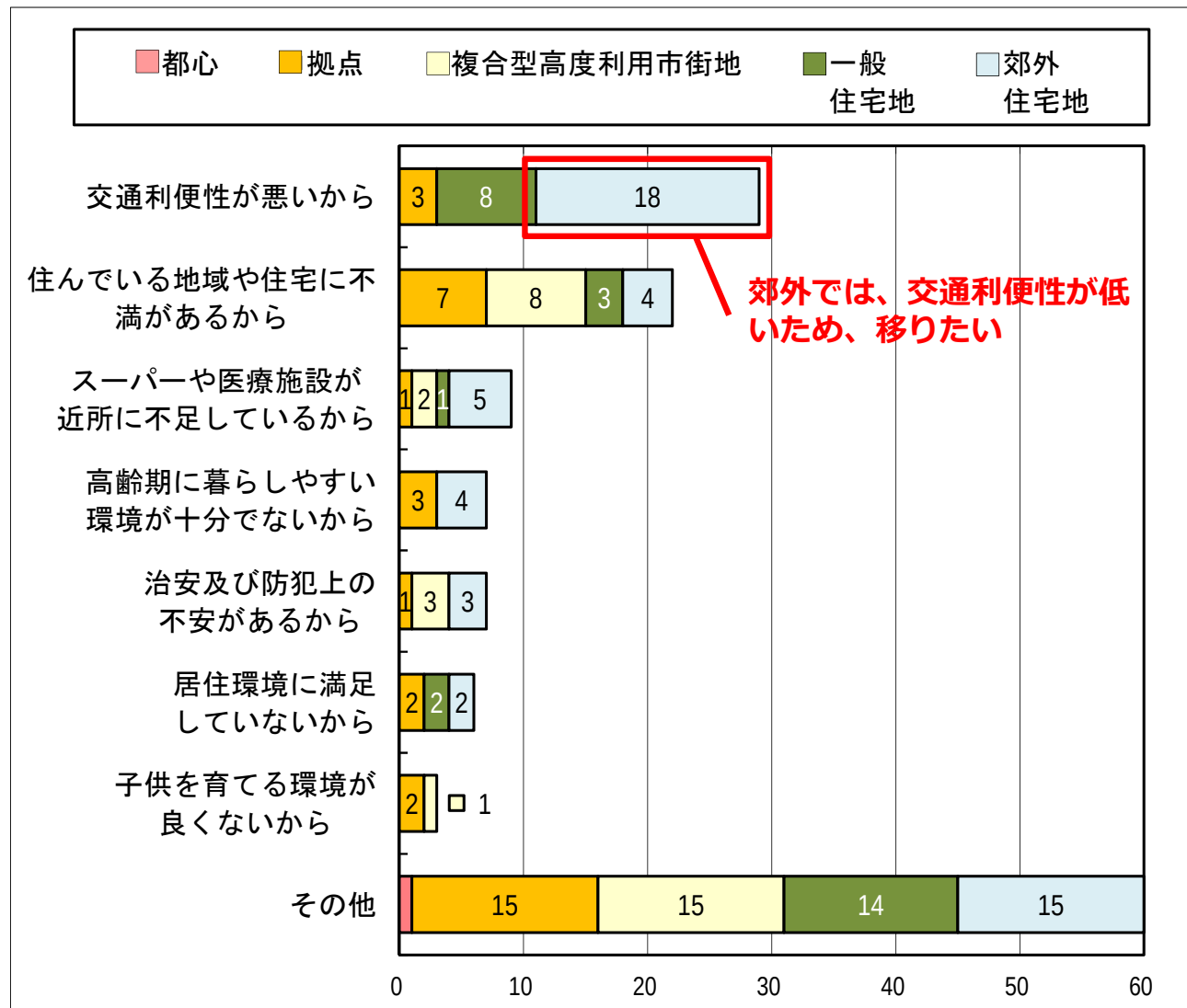


図 移りたいと思う理由（市街地区別）

Q 他の地域や市町村に移りたいと思う最大の理由は何ですか。

・ 郊外では、交通利便性が低いため、移りたい意向がみられる。

市民の意向（市民アンケート）

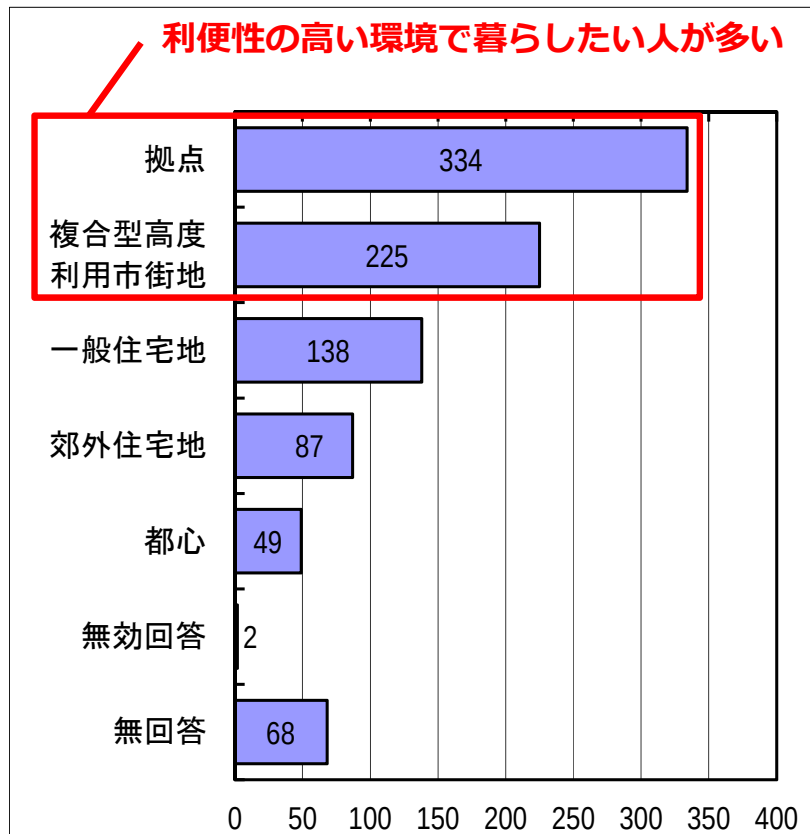


図 住みたい場所

Q あなたが住みたいと思う場所は、どのような地域ですか。

- ・ 住みたいと思う場所は、拠点、複合型高度利用市街地、一般住宅地の順となっており、利便性の高い環境で暮らしたい意向がみられる。

市民の意向（市民アンケート）

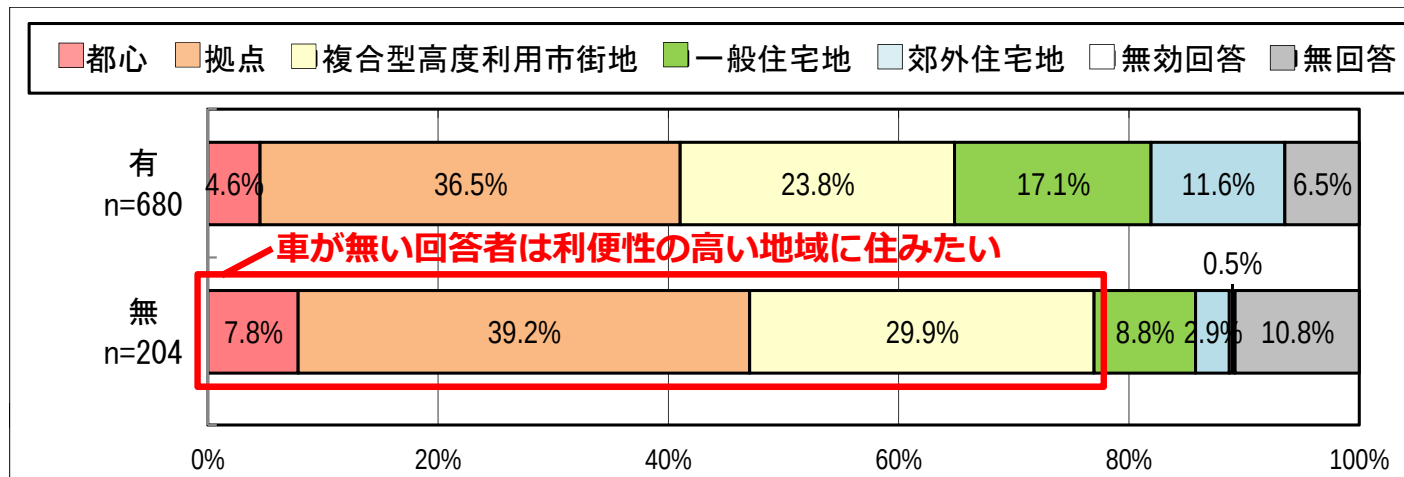


図 住みたい場所（車の有無別）

Q あなたが住みたいと思う場所は、どのような地域ですか。

・車を所有する回答者と比較し、車を所有しない回答者は利便性の高い地域に住みたい意向が高くなっている。